

(1) 単元目標ごとのカリキュラム構成

① 4/21 C I Lカトマンズとの話し合い

参加者：(C I Lカトマンズ) ガネシ氏、デヴィ氏、ナダル氏他

(C I Lイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

時間	内容	備考
30分	近況などの報告	
30分	ネパール政府の動き	
30分	今回訪問スケジュール打ち合わせ	

今回の研修内容についてと日程について事前確認では詰められなかった調整を行う。

ジャムナ氏が海外研修中のため、ガネシ氏に入ってもらいながら実行することを確認。



話し合いの様子

② 4/22 JICAネパール訪問

参加：(J I C Aネパール) ティミルシナ祐加氏

(C I Lカトマンズ) ガネシ氏

(C I Lラリトプル) ギタ氏

(C I Lイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

時間	内容	備考
20分	今回訪問スケジュール確認	
20分	ネパール現在政府動きについて	

・日程の伝達

・ネパールは2017年から行政区分が3つある。それぞれに障害者委員会の設置と当事者の参加が決められているが、具体的な日程は未定で、まだできていない。流動的 (ガネシ)

・27日PAトレーニングは6人で筋ジスの方への安心安全な介助方法について主に行う

・ラリトプルでは車いすの修理工場、リフト車の助成、デイケアセンターについての進捗について確認する

③ 4/22 日本大使館訪問

参加者：(大使館プログラマネージャー) 國貞 雅生氏
 (C I Lイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

時間	内容	備考	
20分	紹介、事業説明	成果物手交	
20分	ネパールの政情について		

- ・近況
- ・今のプロジェクトの状況の報告
- ・ラトリプルにある脳性麻痺センターは理学療法、ボッチャの大会など行う
- ・ネパールの一か月の最低給与は1万4000ルピー程度
- ・教師でも月10万程度
- ・今銀行の利息が5%と高騰している
- ・3月末に投資サミットが開かれた
- ・中国資本とインド資本、ネパール政府との苛烈な取り合い
- ・日本で働くネパール人が増えている。多くが留学生。
- ・最近すこし誤解されている点だが日本で働くには基本的には、日本語能力テスト1級程度で技能実習生(農業や清掃など)として認められ、その後ワンランク上の特定技能を取る必要がある。ネパールは主要9か国(ベトナム、フィリピン等)には入っている。しかし、技能実習生でいと誤解

④ 4/23 4/25 ブッダエア

参加：ブッダエア及び空港スタッフ

内容：車いすユーザーの搭乗に際し、その技術を体験してもらい、今後に生かす。

成果：事前にC/Pにより配慮方法についてレクチャーを受けてもらっていた。搭乗時に飛行機までの移動にバスよりも乗りやすいバンで移動した。タラップは片方の手すりを折りたたみ、車いすのまま持ち上げやすくした。車イスの持ち方も向上していた。



① タラップの片方の手すりを

⑤ 4/23 ポカラ在宅訪問1 (32歳、頸損)

対象：クリシュナ氏 (本人)、奥さん

参加者：(CILポカラ) ラティ氏、バラト氏

③ 担当者と話す

(CILイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

時間	内容	備考
60分	現地障害者の聞き取り調査	
	ニーズの解決に向けた提案	

- ・ 明るい奥さん、やんちゃな4歳と7歳の息子さんと暮らす、お姉さん家族も近くに
- ・ 4年前インドで稼ぎに行っていたときに、帰還していた際、高いところから落ちで受傷。
- ・ 家賃4000ルピー、年金は2000ルピー
- ・ 奥さんも旦那さんの介護などで外で働いていない
- ・ 現在褥瘡(結構大きい)のためベッドから動けない。初めての褥瘡
- ・ 車いす、クッションはあるが、褥瘡予防には適さないタイプ
- ・ クッションは高価なので購入できない
- ・ センター近くのリハビリセンターに通っていた際、センターを紹介された
- 褥瘡予防についての知識、予防マットについての支援の必要性を認識



⑤ 4/23 ポカラ在宅訪問2 (30歳か31歳、障害は不明)

対象：サンサラーム氏 (本人)

参加者：(CILポカラ) ラティ氏、バラト氏

(CILイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

時間	内容	備考
60分	現地障害者の聞き取り調査	
	ニーズの解決に向けた提案	

- ・ 奥さん、二人の息子と暮らす
- ・ ばい菌が脊髄にはいったこと?による下半身まひ、現在も症状は進行している
- ・ 8か月くらい前に歩けなくなる
- ・ 呼吸も苦しくなってきたり、握力や手を動かす力も衰えてきている。徐々に下から上に症状が進行している。寝返りも打ちづらくなっている。プッシュアップできない。

まいにちまいにちよわ

毎日毎日弱くなっているのを感じる

褥瘡は現在はない

もともともらった中古の車イスは使えなかったが、最近軽いのをもらって使えるように

車イスのマラソンでバラッドさんと知り合った

お風呂トイレは共同。和式で使いづらい。移乗は奥さん

治療機関がカトマンズで移動でもたいへんで治療費もかかるためいけない。

情報収集とC I Lポカラを通じた支援約束



⑥ 4/24 介助サービスについてワークショップ

参加者：(社会開発省大臣) Nar Devi Pun Magar氏

(C I Lポカラ) アンジャンナ氏、ラティ氏、バラト氏他10名

(C I Lイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

時間	内容	備考
120分	障害者のPASについて	視覚障害、聴覚障害、知的障害と身体障害
15分	PASについて行政からの報告	

目的：PAサービスに関する知識と情報の共有

- 各障害者団体によるそれぞれの障害特性に応じたPAサービス導入の必要性のアピール
- 日本のPAサービスの現状
- ①ガンダキ県におけるPAサービスのパイロットプロジェクト推進
- ②アクセシブルなインフラ整備。前回訪れた庁舎にスロープを設置した。
- ③経済的支援と福祉機器の支援
- 上記①、②、③を約束した、今後の継続したアドボカシーが望まれる



⑦4/24 社会開発省アドボカシー活動

参加者：(社会開発省大臣) Nar Devi Pun Magar氏

(CILポカラ) アンジャン氏、ラティ氏、バラト氏他10名

(CILイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

目的：社会開発省前にできたスロープの確認

その後大臣も到着し、直接池田さんから謝意とお土産を渡す

・ドクターの方と2か月に一回センターをまわり、無償で健康チェック行うとのこと。その際褥瘡予防についての話もしてくれるようお願いする

・前回参加していた方もおり、段を持ち上げた経験の話をした

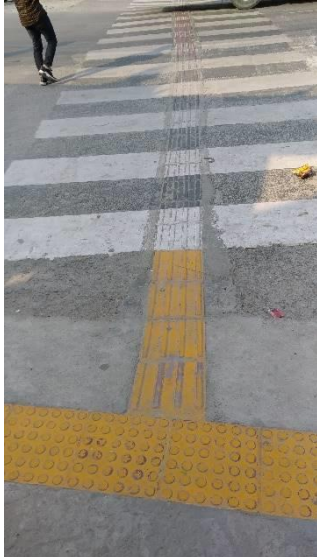
皆にチャイもふるまわれ、終始和やかな場となった。



⑦ 4/24 横断歩道バリアフリーチェック

参加者：(CILポカラ) ラティ氏、バラト氏他2名

(CILイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之



先月政府へのCILポカラによる政府へのアドボカシーとして実施したアクセシブルな横断歩道のモデルとして作った横断歩道。歩道から車道への出入りがフラットで、点字ブロックも埋め込まれている。最近道路整備が進む中で急速に横断歩道ができているが、縁石が高い、道路の中間に中央帯が高いなどの問題があり、車いすではほぼ渡れない。

⑩ 4/25 ネパール政府機関へのバリア除去キャンペーン

参加者：(インフラ交通省大臣, 財務省大臣)

(CILカトマンズ) ガネシ氏、ジャムナ氏、ティク氏、デビ氏

(CILイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之 他

時間	内容	備考
10分	当事者の声とニーズ手紙で大臣に渡す	
25分	大臣からの報告	

○物理インフラ運輸省 (Ministry of Physical Infrastructure and Transport) のアドボカシーは

飛行機到着遅れのため不参加

○首相官邸 (Office of Prime Minister) は不在のため文書を渡す

○連邦総務省 (Ministry of Federal Affairs and General Administration)

池田>インフラ整備については障害当事者も入れて、スロープや道の整備など車いす

でも移動しやすい環境の整備を進めてほしい

○財務省 (Finance)

ツァイ>日本など海外の支援は時期が短い場合が多いので、政府には継続した支援、

特にPAやバリアフリーなどお願いしたい



⑪ 4/26 カトマンズ都指導長に訪問

参加者：(カトマンズ都指導長)

(CILカトマンズ) ガネシ氏、ジャムナ氏、ティク氏、

(CILイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

時間	内容	備考
10分	事業の説明	
2時間半	まちづくり、バリアフリー環境、介助サービスについて意見交換	

・予算の件 (まる子) 障害者予算は3% (日本は国家予算の2%ほど…)

・交通アクセスの件 (池田)

- 見えない障害 (聴覚障害) のシンボルに帽子使う件
- 障害者委員会の件
- PAの件はDVDで左恭のをみせる
- 特になぜ自立が大事なのか、当事者の人権、親なき後、親の仕事などの観点から説明
- バスの件、次回来た時には緑のバスに乗る約束
- 建物や道は作り直すのが大変だから
- 呼吸機器をつかっている当事者の件



↑ 30分の予定時間を3時間話をした

↑ リフト車に興味津々

⑫ 4/27 介助研修 (筋ジストロフィー特化)

参加者：介助者5名

(CILカトマンズ) ガネシ氏、ジャムナ氏、ティク氏 (10名)

(CILイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

時間	内容	備考
10分	事業の説明	
2時間半	介助実習	

○ビジェンドラさんについて

- CILカトマンズ来る前17年ずっと家にいた
- 今は1週間に1回家出る。付き添いないと怖い。
- 去年12月にCILから韓国製の電動車いすもらいエキサイティング。
- 今まで2回ILP
- CILと関わるまでは自分の病について自分の問題だと泣いていた。
- ウィークネスではなく、リビングネスだと気づいた。私も自立できると自信が芽生えた。

○今日の受講生について (名前、背景、好きな事、将来の夢)

○筋ジスについて

- 全身の筋肉が弱くなる

- ・タン、鼻水を出せなくなる
 - ・呑み込みが弱く、むせもしづらい>肺炎になりやすい
 - ・かむ力が弱い>食べ物は刻む
 - ・ふるえができない>寒さに弱い>声掛けし、服をかける、濡れたらふくなど
- ※冬などは、電動車いすもうごかしづらい

・細かい指示と、本人のペースに合わせた介助が必要となる

- ・細やかな介助が必要なのは、健常者は無意識で体を動かすことで痛みを軽減して

いるが、

それを介助で行うため

- ・筋ジスは一度壊れた筋肉は回復しづらい
- ・心臓への負担をなくすため、定期的に横になることが必要

○介助の基本

- ・ペアに分かれて、片方が車いす上で正座と腕組片方が介助、交代しながら食事介助

1. 麺左から口からはなすやり方

2. 麺右から口からはなすやり方

3. 飲み物左から口のわきからのやり方

4. 飲み物右から口のわきからのやり方

5. 飲み物左から口からはなすやり方

6. 飲み物右から口からはなすやり方

- ・車イス操作 急にウィリー、坂を下るとき、凸凹を介助者役、当事者役交互に経験



(32歳 筋ジストロフィー)

対象：キラン氏(本人)、家族

参加者：(CILライトプル)クリシナ氏、ギター氏(5名)

(CILイルカ)池田博昭、ツアيسファン、早坂佳之

時間	内容	備考
60分	現地障害者の聞き取り調査	
	ニーズの解決に向けた提案	

お姉さん家族と同居。2階のため、抱えて降りる。

地震の時、友達と一緒にいて抱えて逃げて助かった。自宅は倒壊。現在新しい家を建設中。新しい家に住むのが楽しみ。1階部分が店、2階部分が居住エリアだが、1階に住めるスペースつけれないか。テレビ取材も入る



⑭ 4/29 バリアフリーキャンペーン in パタン

参加者：(CILラリトプル) クリシナ氏、ギター氏(7名)
(CILイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之



⑮ 4/29 ラリトプル市長アドボカシー活動

参加者：(ラリトプル市長) Chiribabu Maharjan氏
(ラリトプル市長秘書) Indra Bajracharya氏
(CILラリトプル) ボジュラ氏、クリシュナ氏、ギタ他9名
(CILイルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

時間	内容	備考
25分	事業の説明	
25分	今後の事業について・意見交換	

- すでに今年度(6月まで)50万円をデイケアセンターと車いす工場のために用意した
- デイケアセンターにおける介助者の必要性
- 重度障害者も乗れるリフト車の必要性
- ①リフト車購入にかかる免税についての手続きは市長が進める
- ②維持費、ガソリン代は市の財政で行う
- ③運転手は市の予算で確保する
- 上記①、②、③を約束後CILラリトプルと共同で購入に向けて募金活動を始める
- これらの契約を8月に結び、10月までには稼働できるようにする
- 庁舎にエレベーターの設置を2か月後完成目標に進めている

- ・アクセシブルなバスを1台購入した。さらに増やし
- ・障害者のアクセシブルな住宅の建築も進めている。
- ・パタン世界遺産群のアクセシブル化について



(CIL ラリトプル) クリシナ氏、ギター氏 (6名)

(CIL カトマンズ) ラメシ氏

(CIL イルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

時間	内容	備考
60分	施設見学	
60分	日本の制度について・意見交換	

- ・医師が子どもの医療的なニーズを確認し、リハビリの知識を親に伝える機能
- ・特別学校、滞在型施設を併設。
- ・18年度は3000人のCPの子どもたちにサービスを提供した。
- ・48人は学校、500人はリハビリセンター、80人は施設、1500人の在宅訪問、270人のケアセンターでのサービス、親向けのPAプログラム（ケアの仕方学ぶ）も400人に実施し26グループある。うち1グループが団体化される予定。
- ・資金体制として、80%はドナー、14%は親から、政府（教育、健康）からは施設作る時だけ。10万～20万ルピー。地方政府からはもらっていない。
- ・年齢は5～15歳は勉強、15歳以上は就労（他の支援には年齢制限はない）
- ・5歳までのプサプログラム（芽吹き）と5歳以上のプラダリプログラム（花咲く）
- ・施設は1か月と決まっているが、ときどき1週間、2週間もある。
- ・課題は資金。ドナーのサポート期間が限られている。今年やっても来年どうするか？
- ・また普通学校へのアドミッションすることもチャレンジ。普通学校にはサポーターいない、アクセスない。CPは病気という悪いイメージがある。
- ・このCPセンターに来られる人はまだいい。ネパール全土で8万人いると言われている。その多くはとても大変な生活といわれている。あちこちにケアセンターできている。
- ・そこは、今からでようというのが目的です。
- ・ポカラには20歳のCPの人のリーダーがいる。

<意見交換>

CILの説明、PAサービス、自立の概念について、意思決定について、

あお しば かい (C P) の運動について
にほん じりつせいかつ えいぞう
＜日本の自立生活についての映像＞



⑰ 4/30 交通物理インフラ省アドボカシー

参加者：Ministry (Deputy Secretary)、Ministry (Secretary)

(CIL ラリトプル) クリシナ氏、ギター氏 (他6名)

(CIL カトマンズ) ラメシ氏



(CIL イルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

内容：○障害者のアクセス上の困難について

・ネパールでは、障害者が4輪スクーターを使用できない場合、タクシーを使用する必要があり、非常に高価。

・政府は地元の交通機関を整備するべき。低床、広いドア、車椅子スペースが必要。

・道路、歩道、レストラン、ショッピングセンターはすべて車椅子利用者にとって非常に困難。

＜日本の車イスユーザーの生活の映像＞日本の車椅子ユーザーが道路、歩道、地元の交通機関、ショッピングモールを簡単に使用していることを示した。映像により言葉よりもアクセシビリティについて伝えることができた。

・秘書の Madhusudan Adhikari 氏と副秘書の Gopal Prasad Sigdel 氏は、どちらもそのビデオに非常に感銘を受けた。

・彼らは輸送のガイドラインを準備し、今後物理的なインフラがすべての人にとってアクセス可能になるであろうと言った。

・障害者団体による前向きなアドボカシーを望む。誰もが障害を持っている。

・したがって、物理的なインフラストラクチャが障害者にとってアクセシブルであれば、それはすべての人にとって有益なことである。

・彼らは私たちの問題に非常にポジティブで、今後も協働していくことを約束した。



⑱ 4/30 JICA ネパール訪問

参加者：

(JICA ネパール) ティミルシナ祐加氏

(CIL カトマンズ) ジャムナ氏

(CIL イルカ) 池田博昭、ツァイスファン、早坂佳之

今回の活動報告を行った

